

# 【FS】新たな技術を活用した生活道路安全対策の社会実験(埼玉県朝霞市)

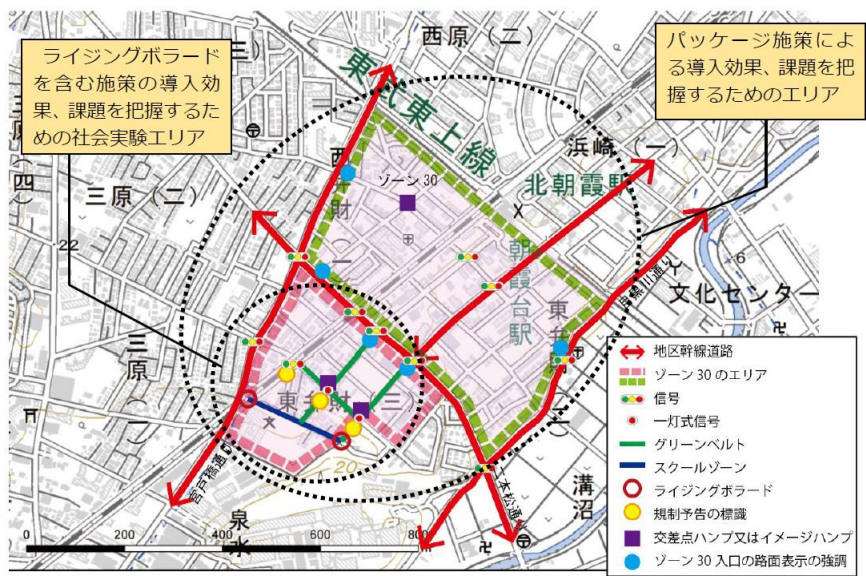
## 1. 実験概要、留意すべき事項

- 新たな技術を活用した生活道路安全対策の社会実験(案)の実施を通じ、先端技術を取り入れた全国の参考事例となる、更なる生活道路の安全対策を検証する。
- 他の地域の参考資料となるようなICT技術を活用した生活道路の交通安全対策につながる調査となっていること。

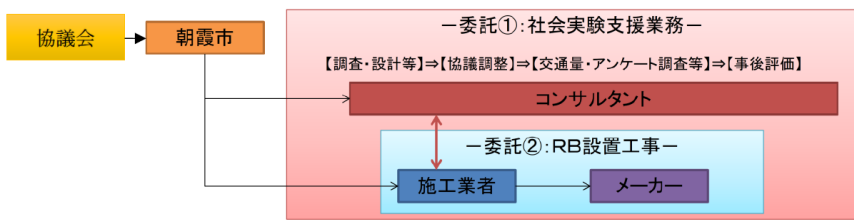
## 2. 今年度の調査内容、調査結果

### 【ライジングボラードによるスクールゾーンへの車両進入抑制】

- ① 沿道住民アンケート調査⇒ **賛同の意見が多く、住民説明会や実証実験の実施等の合意形成に向けた検討を進める**
- ② 埋設物調査⇒ **道路、下水道、水道、東京電力、大東ガス台帳を確認、問題なし**
- ③ メーカーヒアリング⇒ **実行可能性や事業費算定のための見積もりについて聴取**
- ④ 関係機関協議⇒ **交通管理者(警察)と現地確認を実施し概ね了解、学校関係者からは前向きな意見あり**



作業区分	朝霞市	コンサル	メーカー	施工業者
調査・設計		○		
関係機関協議・調整	○	○		
許可申請(道路法32条、24条)	○			○
施工			○(設備)	○(土木) ○(電気)
維持管理/暫定(試験期間中)			○	
維持管理/恒久(本格導入後)	○			
交通量・アンケート調査等		○		
事後評価		○		



ライジングボラード設置に向けた役割分担(案)

## 3. 次年度の社会実験に向けて

R2年度は、一旦中止

実験メニュー	実験内容
ライジングボラードによるスクールゾーンへの車両進入抑制	<ul style="list-style-type: none"><li>・ スクールゾーンの出入り口にライジングボラードを設置し、車両の通行を抑制</li><li>・ スクールゾーンに交差する細街路の入り口に規制予告の標識を設置し、通過交通車両を抑制</li><li>・ スクールゾーンと交差する細街路の自動車交通量を調査、導入効果を検証</li><li>・ 規制予告で効果が認められなかった場合は、本格実施に向け、交通規制やライジングボラードの設置を検討</li></ul>

## 4. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
ボラードの技術は、国際的には確立した技術としてすでに存在していることから、ICT技術、データベースを活用することが必要である。	車両自動認識システム等のICT技術を活用することを検討項目としてFS(実行可能性調査)を実施する。
イメージハンプは、長期的には効果が薄くなるのが分かっているので、あまり推奨していない。交差点ハンプは設置しやすく、視認性に優れている。通学路に横断歩道ハンプを設置した沖縄県浦添市では、車両が手前で止まるようになった。	FS調査で検討し、効果の高い施策を実施する。

## 5. 今後のスケジュール

- 令和2年4～8月: 関係機関協議
- 令和2年9～10月: 設置工事
- 令和2年11月～令和4年3月: 社会実験の実施
- 令和4年度: 本格導入(予定)

新型コロナの影響により、スケジュールを見直し中